

2. 都市空間形成の方針

2 - 1 . 広場

賑わいのあるシンボル性の高い、人のための広場を整備します。
広場に隣接する開発やＪＲ新北ビル開発と相互に連携して、一体的な機能の確保、空間の形成をめざします。
南口広場も含めて機能の再編を図り、適切な交通機能の確保をめざします。

(1) 広場の基本方針

- ・ 国際集客都市大阪の新しい玄関口として、大阪の代表的風景となる高いシンボル性と豊かなアメニティを有する駅前空間の形成を図ります。
- ・ 現在の JR 大阪駅前広場(南口広場)が十分な規模が確保されていないため生じている、市バス・タクシーの路上における待機、広場内の修景空間・歩行者空間の不足等の課題に対応するため、南口広場も含めて機能の再編を図りつつ、当地区の開発に併せて段階的に駅前広場を整備し、適切な交通機能の確保をめざします。

(2) 北口広場の整備

1) 基本的な方針

- ・ 当地区における北口広場とそれに隣接する建築物の敷地(駅前敷地)及びＪＲ新北ビルが一体となり、大阪・関西の玄関口としてふさわしいシンボル性をもつとともに、人々の交流、憩いの場として、また、イベント広場としても活用できる空間を創出します。また、歩行者交通の結節点として地区内の人の集散が効率的に行われるようにします。
- ・ 公共による北口広場の整備と民間事業者による駅前敷地の開発及びＪＲ新北ビル開発は相互に連携して全体としてまとまりのある空間形成を図ることとします。

2)北口広場の位置、形状及び規模

- ・ シンボル軸と一体となった空間形成を図るため、またＪＲ大阪駅中央コンコースからの動線を確保しつつ、人の動線や視線をシンボル軸や地区中央方向への誘導を図るため、西寄りの位置に南北線に沿い、三角形の形状をとるものとします。
- ・ 規模については、歩行者の動線やたまり空間としての必要規模の確保、大規模なイベント空間への活用等を勘案して、約 1 ha とします。

3)北口広場の空間形成

- ・ ＪＲ大阪駅中央コンコース前においては十分なオープンスペースを確保し、圧迫感のないゆとりのある空間を形成します。
- ・ シンボル軸や地区中央への歩行者の動線を確保します。

- ・ 重層的な歩行者動線の形成とそれらを円滑に結ぶ工夫をし、既成市街地や地区内街区との連絡を円滑にします。
- ・ 印象的・象徴的な緑や水の景を配置し、憩いと安らぎの空間を形成します。
- ・ シンボル軸、さらには西口広場が一体となった空間の広がりをもった眺望を新北ビル等から確保します。特に、シンボル軸の軸線や地区中央のランドマークとなる建築物等への見通しをもつ視点場の確保には留意することとします。一方、シンボル軸や地区中央付近から新北ビルへの見通しにも配慮するものとします。
- ・ 広場としての落ち着きや、人々が集いたまり場となるための安心感の醸成に留意し、南北線沿いの空間形成等を工夫することとします。
- ・ 駅前敷地における建築物にあっては、前面部分は低層とし高層部はさらに壁面後退を行うことにより、圧迫感のない駅前空間を形成します。また、風の影響等に配慮した建築計画とし、駅前空間を居心地のよいアメニティ豊かなものとします。
- ・ 駅前敷地における低層部の商業施設等は広場と一体となって駅前の賑わいを創出します。また、その造り込みには工夫をし、シンボル軸へ人を誘う計画とします。
- ・ 広場の具体的な空間形成内容は、これらの考え方に基づき駅前敷地の建物計画・空間計画と一体に計画し、公民協働して整備することとします。

4) JR新北ビルとの連携

- ・ JR大阪駅と連続した賑わいある駅前空間の創出や円滑な歩行者動線の確保などを図るため、JR新北ビル計画と連携し、公共的な空間を確保します。
- ・ 1階部分では、JR大阪駅と隣接した立地を生かして交通機能を確保し、2階部分では、当地区との2階レベルの動線の起終点となるゆとりある人のたまり空間を創出します。さらに、阪急方面や南側市街地との連絡強化など、大阪駅周辺の円滑な歩行者動線を形成します。
- ・ 規模については、それぞれの機能に必要な規模として、1階に約4,000㎡、2階に約1,500㎡を確保します。

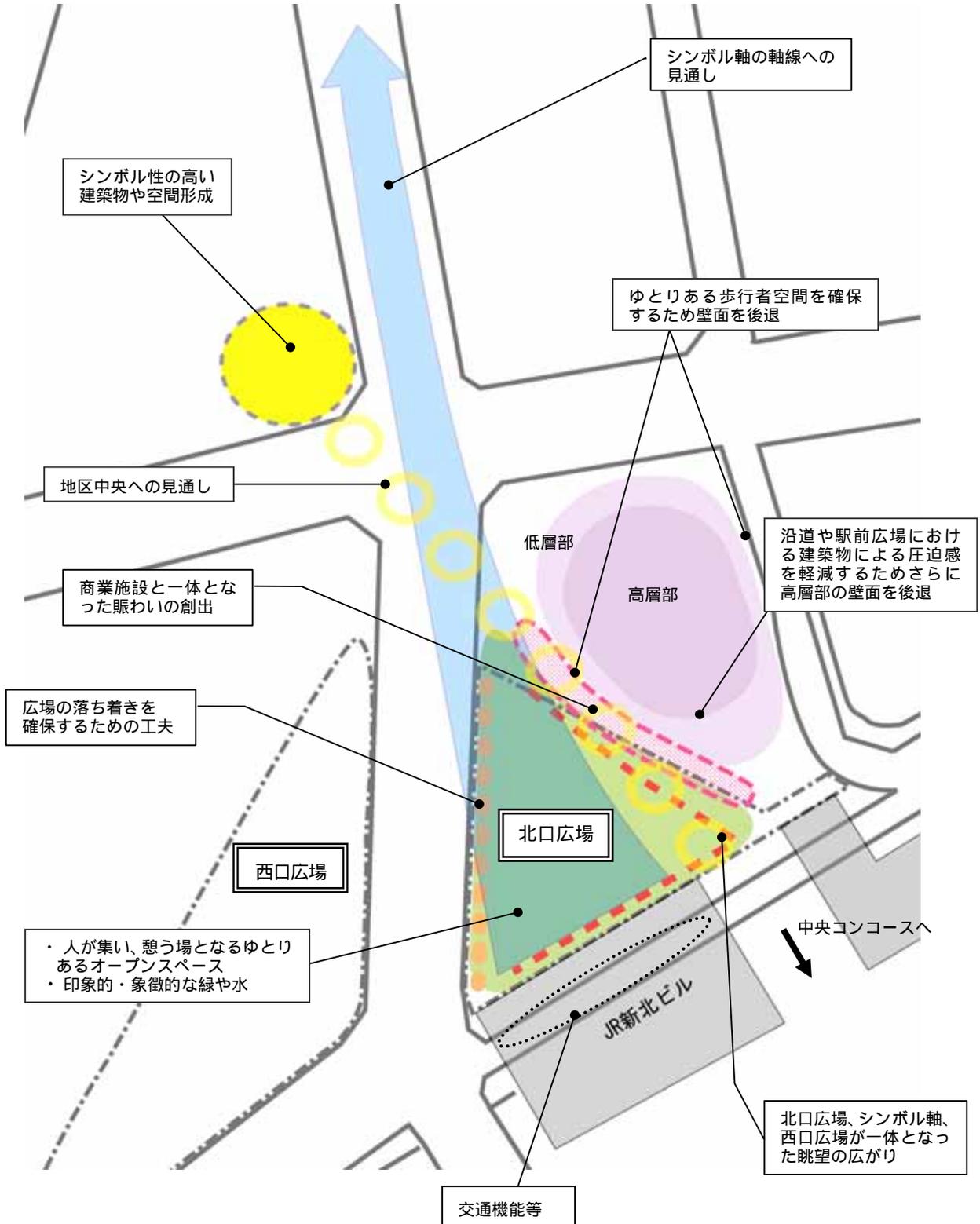
(3) 西口広場の整備

- ・ 南北線西側の新駅の上部空間を活用し、西口広場として整備します。
- ・ 当広場では、北口広場との一体的な空間形成を図りつつ、大阪駅前広場として適切な交通機能を確保し、ターミナル機能の強化を図るため、南口広場の再編、新駅計画と併せて検討を行います。また、規模については、約1.5ha程度を確保します。

北口広場の整備イメージ(例)



駅前空間の空間形成イメージ



(4) JR 大阪駅周辺の歩行者動線ネットワーク

JR大阪駅の改良、JR新北ビル計画に併せて整備される歩行者動線ネットワークと連携し、駅前街区の建物や各方面に連絡する重層的な歩行者動線を確保することにより、大阪駅周辺の歩行者ネットワークの強化を図ります。

さらに、駅前広場下の地下通路の整備に併せて、沿道に商業施設等を誘導し、賑わいのある地下空間を創出します。

〔2・3階レベル〕

- ・ JR大阪駅の改良により、南側市街地から、橋上通路～新北ビル2階広場に至る動線及び阪急方面への歩行者通路が計画
- ・ 民間開発と併せて、2階広場から駅前敷地に至る動線を整備
- ・ 必要に応じて、東西線を経て北側敷地に至る動線や西側街区への動線についても検討



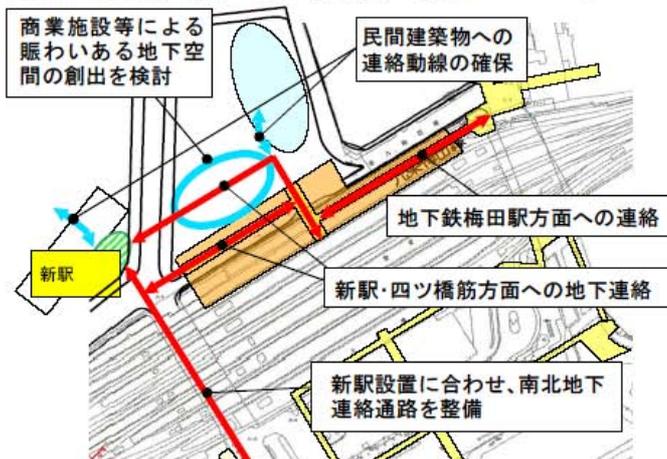
〔地上レベル〕

- ・ JR大阪駅改良により中央コンコースから駅前広場に至る動線が確保
- ・ 駅前広場から地区内の各方面への円滑な動線の確保が必要



〔地下レベル〕

- ・ 新北ビル計画により、大阪駅と地下鉄梅田駅を結ぶ通路が確保
- ・ 新駅の設置に併せて、四ツ橋筋下付近での南北地下公共通路を整備
- ・ 新駅へ連絡する広場地下通路の機能確保に併せて、商業施設等による賑わいある地下空間の創出を検討



2 - 2 . シンボル軸

地区のシンボルとなるゆとりと風格のある空間を創出します。

低層部は壁面後退し、歩道部分と一体的なオープンスペースを確保し、公民連携して水と緑の空間を形成します。

高木街路樹と沿道建物の基壇部分の屋上緑化等により「緑の谷」を形成します。

(1) 基本的な考え方

地区中央を南北に貫く大通りを、ゆとりと風格のある当地区のシンボル空間として整備します。このシンボル軸は当地区の水と緑の骨格軸となり、周辺へと水と緑のネットワークが拡がります。歩道部分や壁面後退によって創出された一体的なオープンスペースでは、公共と民間が連携し、水や緑を中心に、サイン、ストリートファニチャーなどにより快適な歩行・たまり空間を創出します。

また、シンボル軸では緑の中でのイベントなど多面的な利活用にも対応できる空間とします。

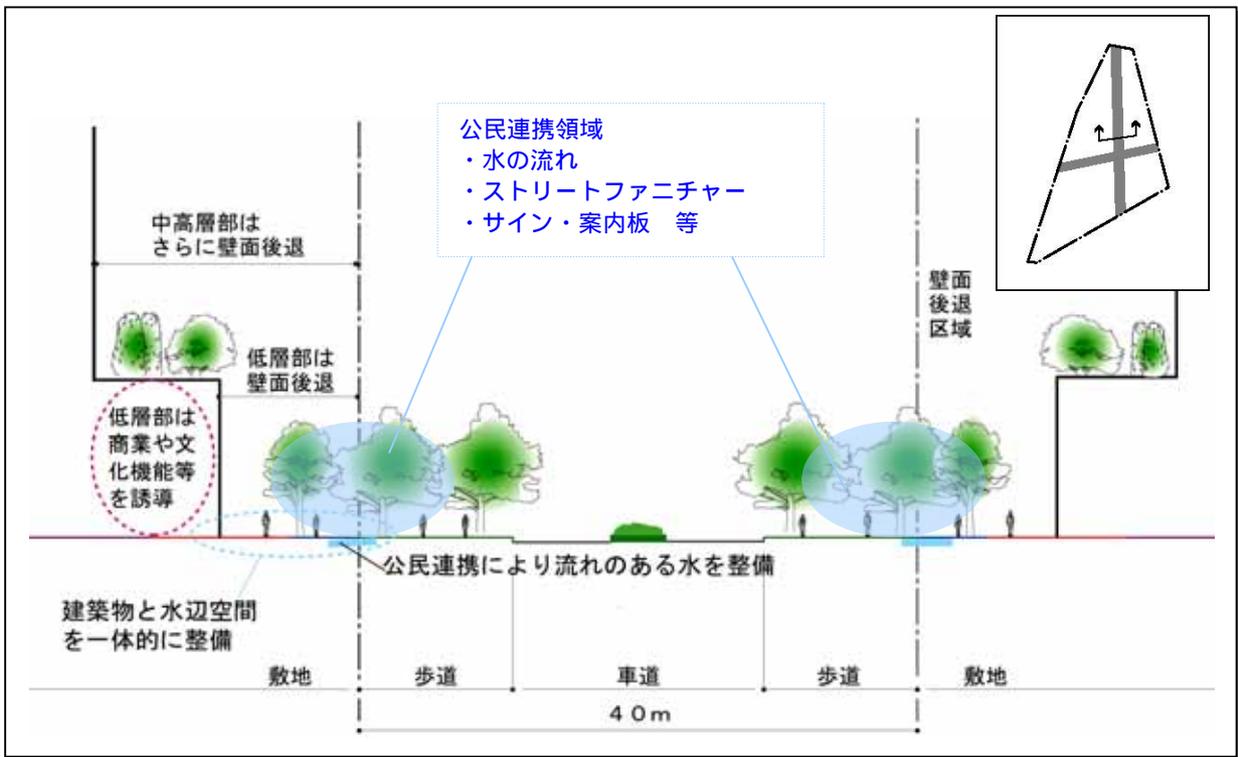
(2) ゆとりと風格のある公民連携の水と緑の空間形成

- ・ 歩行者の視線から圧迫感のない空間を創出するため、建築物の低層部から中高層部へと段階的に壁面後退を行い、連続的な建築物の基壇部分のスカイラインの形成を図ります。
- ・ シンボル軸での水と緑の骨格の整備にあたっては、公民境界や民間の敷地境界で分断することなく、公民連携して統一的・一体的に形成します。
- ・ シンボル軸は高木街路樹による緑陰の広幅員プロムナードとし、沿道建物基壇部分の屋上緑化や壁面緑化などを併せて大きな「緑の谷」をイメージする緑あふれる空間とします。低層部の屋上緑化等にあたっては、地平から見え、人々が緑にふれあえ、また憩える空間とします。
- ・ シンボル軸には、水のネットワークの主軸となる北から南へ流れるストーリー性のある水の流れを配し、歩道部と壁面後退部に公民連携により、沿道の土地利用と整合のとれた多様なイメージの親水空間を創出します。
- ・ 歩道部における水の規模は、歩行者の動線等に配慮しつつ、民間敷地内の水と一体的に計画することとしますが、民間敷地内における持続可能な維持管理システムの採用を前提として決定します。
- ・ 緑、水以外のサイン、ストリートファニチャー等についても公共空間と民間敷地内の外部空間、建築空間とが連携して整備し、魅力あるまちなみの形成を図ります。
- ・ 道路と壁面後退部の空間形成にあたっては、高齢者や障害者等あらゆる人々が楽しく、そして円滑に移動できることに配慮し、適切なストリートファニチャー等の配置などにより快適な歩行、たまり空間を創出します。また、水の整備についてもその配置が移動の大きな障害とならないよう十分検討することとします。
- ・ ゆとりと風格のある美しいまちなみ形成のため、シンボル軸には、横断デッキや歩道橋を設置しないことを原則とします。

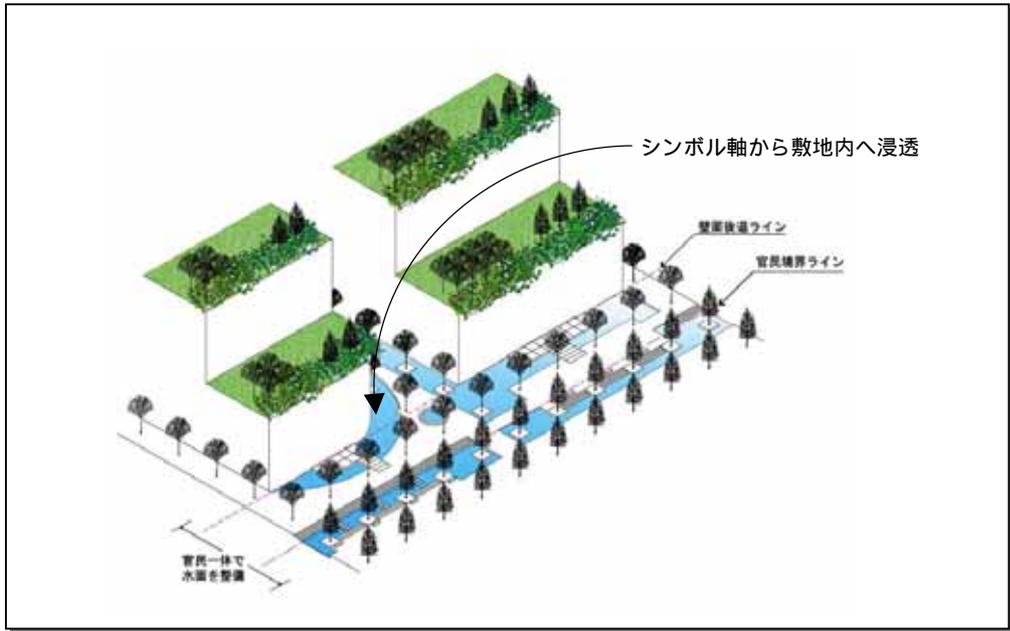
シンボル軸の景観イメージ



シンボル軸の断面イメージ



シンボル軸における水と緑の整備イメージ概念図（例）



シンボル軸の整備イメージ



2 - 3 . 賑わい軸

賑わい軸では、華やかで賑わいのある空間を創出し、周辺の開発拠点との回遊性を高めます。

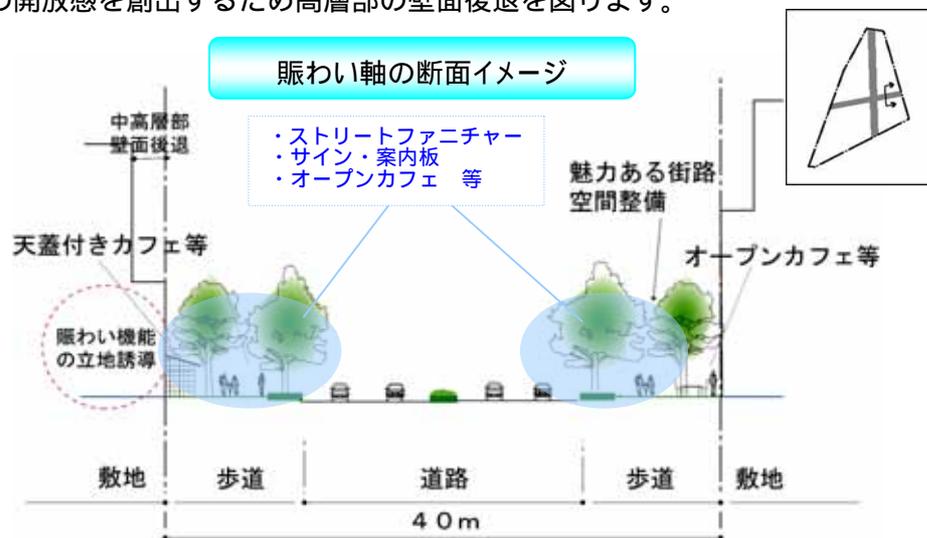
賑わい軸に面する建築物の低層部は壁面後退せず、沿道の店舗等と一体的な賑わいのある歩道空間を形成します。

(1) 基本的な考え方

地区中央を東西に貫く賑わい軸は、当地区の東西に位置する既存開発拠点と連携し、大阪駅周辺地区の回遊性を高める役割を果たします。広幅員の歩道には街路樹を配し、当該軸に面する商業施設と一体となった木漏れ日のある緑の空間を創出し、華やかで賑わいがあり、ゆったりと楽しく歩ける空間を創出します。

(2) 華やかで賑わいのある空間形成

- 沿道建築物にはブティックやギャラリー、カフェなど賑わいある施設立地を誘導し、華やかで雰囲気のある空間をめざします。
- 低層部は壁面後退せず、広幅員の歩道空間を活用し、カフェや屋外ギャラリーなど各種施設により魅力的な演出と有効活用を行い、商業施設等と歩道空間の空間的一体性や連続性を創出します。
- 上空の開放感を創出するため高層部の壁面後退を図ります。



賑わい軸の整備イメージ



2 - 4 . 外周部や敷地内での空間整備

周辺地域と調和のとれた地区外周区間を創出します。

敷地内においてもインナーモール等の連続する賑やかな空間を配置し、地区全体の歩行者の回遊性を高めます。

(1) 外周道路沿いの空間形成

- ・ 壁面後退による公開空地の創出で周辺地域と調和のとれた空間整備を図ります。
- ・ 高層部はさらに壁面後退することで圧迫感のない空間形成を図ります。
- ・ 各建築物の敷地で創出される公開空地では植栽等を配することによってアメニティ豊かな魅力ある外部空間を形成し、地区周辺部からの人の流れを誘い迎え入れます。

(2) 賑わいネットワークの空間形成（敷地内の歩行者空間）

- ・ 南北、東西の2つの主軸に加えて、各街区の敷地内にも歩行者の回遊性を高めるヒューマンスケールに留意した賑わいネットワークを配置します。
- ・ 建築物の低層部には商業施設を連続的に配し、駅前から各街区を連絡する歩行者空間（インナーモール等）を形成します。
- ・ 異なる民間事業者間にあっても、その位置・高さなどを施設間で協調しつつ、連続性のある歩行者空間を形成します。

